



建築事業

Building Construction

ふじみ野ステラ・イースト ホール棟
DBOにより、市内に2つの文化施設(ホール等)を整備

建築事業では、高度かつ多様な社会ニーズに対し、企画・設計から施工まで取り組み、オフィス、商業施設、物流施設、公共施設、住宅など幅広い用途の建築物の提供を通して、社会基盤の形成に貢献しています。

また、環境負荷低減や、地域社会に貢献する技術開発にも注力しています。これからも、ものづくりを通じた付加価値の高いサービスの提供を目指します。



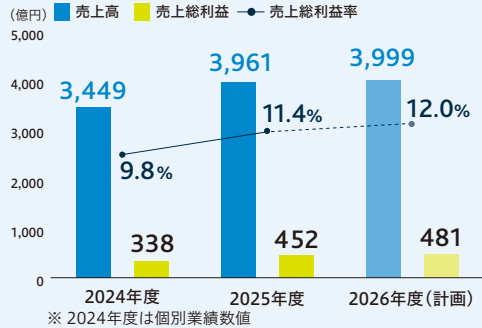
はたかま ゆうじ
幡鎌 裕二
インフロニア・ホールディングス株式会社
執行役 建築事業セグメント担当

執行役メッセージ

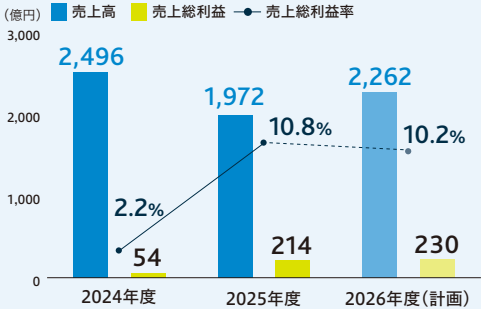
建築事業セグメントでは、三井住友建設の早期V字回復を最重要課題として、利益額向上を掲げています。その一環として、前田建設とのJV工事を推進しています。また、営業・設計・施工の連携を強化しグループ一体運営によるスケールメリットを最大限活用することで、両社の主力市場を寡占化することを目指します。さらに、新たな成長分野へ挑戦を進め、事業領域の拡大と収益力の強化を推進します。安全・品質を最優先とし、社会と顧客からの信頼と期待に応える事業運営を実践してまいります。

業績の推移

前田建設 連結



三井住友建設 連結



SWOT分析

Strength 強み

- 再開発を中心とした安定的な受注実績
- DXを活用した高度なプロジェクト管理
- ホールディングス体制による総合力
- コンセッション事業を含む多様な案件への対応力

Weakness 弱み

- 建設業界全体における労働力不足
- 技術者の高齢化と技術継承の停滞

Opportunity 機会

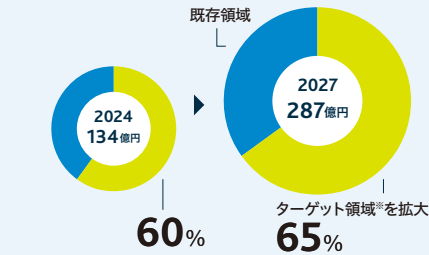
- 旺盛な民間による建設需要
- 脱炭素・地域創生を背景とした環境対応技術への期待の高まり

Threat 脅威

- 建設コスト上昇
- 価格競争・受注競争の激化

成長分野ポートフォリオ

事業利益比率(既存領域 / ターゲット領域)



※ターゲット領域：超高層住宅・食肉加工工場・冷凍冷蔵倉庫・物流倉庫

経営資源の相互補完による体制強化、受注規律の徹底を図り、さらなる利益向上を図ります。

また、超高層分野での高いエンジニアリング力を活かし、トップシェアを目指すと共に、食肉加工工場、冷凍冷蔵倉庫、物流倉庫などの新しい領域に注力します。

2025年度の主な取り組みと今後の展望

三井住友建設

建築事業の早期回復と安定成長

多額の損失を計上した国内大型建築工事は、2025年度に無事完成しました。これまでの失敗を踏まえ、再発防止策を徹底していきます。また、各地では当社の技術力を象徴する建物が相次いで竣工し、新たなステージへの移行を果たしています。これを契機として、建築部門は統合効果を最大限に活かしながら、「確実性」と「速さ」が両立する効率的な体制構築に向けて再始動しました。前田建設とのベストプラクティスを相互に吸収・展開することで、顧客対応から施工に至るまでの全プロセスの品質向上を実現し、確実性の追求と効率化の推進により強固な収益基盤を構築してまいります。この統合による総合力で顧客の期待に応え続け、建築事業の早期回復と安定成長を実現すると共に、社会に貢献する価値ある建築物を提供し続けることを目指してまいります。

PAEシステムの高度化及び標準化による普及

PAEシステムは、関連工種の多いPCa工事において関係者が1対1で情報共有していた従来の管理手法を「人と人をつなぐICT」として統合管理できるデジタルプラットフォームです。市販アプリを独自連携させることで、一次情報のタイムラグ・誤伝達・重複入力などの課題を解消します。またIoT技術を活用した現場情報のデジタル化として、独自のRFIDタグによる部材の個体識別、マップ表示、施工ステータスの表示や、天候不順をチャットへ自動配信する機能の他、工事中の高層階の通信を確保する衛星通信環境も整備しています。国内で30,000pcs以上の管理実績と、海外では鉄骨工事の海上コンテナ物流管理に应用するなど、様々な現場管理の効率化への貢献が期待されています。



麻布台ヒルズ
レジデンスB

前田建設

「収益力向上」と「エンゲージメント」の連動で、持続的成長を実現

建築事業本部は2030年度に、「売上総利益500億円超」という目標を掲げ、強固な経営基盤の確立を目指します。本目標の核心は規模の拡大ではなく、



プライフーズ株式会社南郷工場新築工事

徹底した「利益生産性」の追求です。激変する環境下で持続的成長を果たすため、従来の売上至上主義から脱却し、新たな経営指標の核として「一人当たりの施工利益」を据えます。

この生産性改革の要となるのは、建築生産設計部が主導する「フロントローディング」の徹底です。プロジェクト上流工程で課題を洗い出し、最適な設計・計画を構築することで現場のロスを最小化し、施工利益を最大化する「利益体質」を強化します。また、社会ニーズの変化に対応し、アリーナ施設・冷凍冷蔵倉庫・食肉加工施設・大型リニューアル・大型仮設事業の5分野を重点領域に設定しました。特にアリーナ事業においては、2026年度より「アリーナ推進部」を新たに設立しました。本組織は設計・施工のプロフェッショナルが一体となった専門集団であり、前田建設の事業戦略部門と密接に連携することで、企画段階から運営を見据えた最適な提案を可能にします。

私たちは、技術力と創意工夫によって従業員一人ひとりが高い付加価値を生み出す組織へと進化することで、企業の収益力向上と従業員のエンゲージメント向上を高い次元で両立させ、真に強い組織への変革を推進していく決意です。この好循環の創出こそが、私たちの目指す真の成長です。



IGアリーナ

従業員の声



きたがわ なおき
北川 直樹

前田建設工業株式会社
建築事業本部
アリーナ推進部PMグループ グループ長

2026年度より設立されたアリーナ推進部は、今後予定されるアリーナ案件への取り組みを通じ、「企画」「設計」「施工」「運営」各領域の集合体であったこれまでの枠組みを超え、ワンストップ思考の醸成を目指しています。営業・設計・施工の各領域からアサインされた部員一同、持ち得る知見を最大限に注入し重点領域の急先鋒を担う所存です。近い将来、アリーナ案件に留まらず、スタジアム・エンタメ領域が当社の「強み」となるよう部員一同邁進してまいります。